

多様性を 認めめる豊かさ

関係性の未来

キリスト教史上最大の「裏切り者」ユダには、隠された姿があった――。

『新約聖書』の記述とまったく異なるユダとキリストの物語が1700年の沈黙を破って今春、復元・出版された。世界の価値観を転換させるかのような衝撃の発見、それが「異端の書」として封印されてきた『ユダの福音書』だ。古代エジプト語であるコプト語で記された写本の英訳に当初からかわった共著者のマービン・マイヤーさんが講演のために来日した際にインタビューを試みた。

パピルスの断片をつなぎ合わせてみると、『ユダの福音書』の冒頭の一節は次のように始まっていた。「過越(すぎこし)の祭りが始まる3日前、イスカリオテのユダとの1週間の対話でイエスが語った秘密の啓示」



Profile
マービン・マイヤーさん Marvin Meyer

米国チャップマン大学(カリフォルニア州)聖書・キリスト教学科教授、チャップマン大学アルバート・シュヴァイツァー研究所所長、米国クレアモント大学(カリフォルニア州)古代キリスト教研究所コプト語プロジェクト責任者。グノーシス主義(神秘的な知識を重んじる宗教思想)及びナグ・ハマディ文書(1945年にエジプトで発見された冊子形態の写本、新訳聖書外典の権威)、『原典ユダの福音書』(2006年・共著)、『The Gnostic Discoveries(見つけたグノーシス文書)』(2005年)、『The Gospel of Thomas(トマスの福音書)』(1992年)など著書多数。



指導者達は一般の人の心や考え方を支配しなかったから、「禁断の書」として強く否定しなければいけなかったのでしょうか。

現在、ありとあらゆる水準で革命的な変動が起こっているように思います。政治や経済などのあらゆる分野に影響を与えてきた正統派キリスト教は、支配とコントロールという体制を築いてきましたが、それが今、揺らいでいるのではないのでしょうか。人間は自分の内にあるものを活用し、何が真実で何が間違っているのかを、自分たちで考えて判断することができるのです。

革命的な変動

——20世紀後半に『死海文書』(※1)、『トマスの福音書』(※2)、そして今回の『ユダの福音書』が相次いで発見されたことには、世界のパラダイムを転換させるような、大きなうねりを感じます。

これらの文書が次々に登場してきていることは、革命的と呼ぶほどのものだと思います。まるで運命が私たちともにあるというのか、宇宙の流れがそういうタイミングにあるのか…。

ユダの物語も原始キリスト教の歴史も、最近発見されたものは、旧来のものとは違う、まったく新しい光の当て方をしています。このことによって、ユダヤ教・キリスト教だけに留まらず、精神性や宗教的なスタイルすべてにおいて新たな疑問が次々とわいてきています。真実とは、正当とは、異端とは、何なのか……こういった世界レベルでの巨大な問題がすべての宗教に投げかけられているのです。

現代は、宗教に関心を持たない人が増えている時代です。にもかかわらず、今回提出されている問題がみなさんに刺激を与えているのはなぜでしょうか。それは、「根本的な人間の条件」にかかわってくるからだと思います。『ユダの福音書』に書かれていることは、関心を持つすべての人にとって何らかの意味があるのです。

そもそもこういう文書が書かれた当時、どうして『新約聖書』という正典に入れてもらえず、その後教会の指導者が反発したのか。『トマスの福音書』と『ユダの福音書』には、「人間の内にこそ光がある。その人が悟りを開くことさえできれば、内なる光を使って至福を見つけることができる」と記されています。つまり、もし人々がそれを実行すれば伝統的な教会という組織や司祭や司教たちはいらなくなるということです。教会の

個性的な福音書

——『ユダの福音書』には他の福音書にはない、ユダとキリストとの親密さが描かれています。これは書き手の考え方が色濃くあらわれていると考えられますか？

宗教的な文書、とりわけキリスト教に関連する文書は、それぞれの書き手が何をもってして幸福な人生といえるのかという意見をもっているため、その視点が反映されるのは当然です。独特の視点のない宗教書はありません。

その一方で正典とされる四つの福音書は、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネという順番に書かれています。ユダの描かれ方がどんどん悪くなり、厳しい表現になっていきます。共通点は、ユダに対して非常に否定的で「ユダは裏切り者である」と非難していることです。

しかし『ユダの福音書』を読んだうえで四つの福音書に戻り、他にわかることはないだろうかという視点で慎重に分析してみると、確かにユダは否定的に描かれていますが、それは何か下にあるものを覆っているように見えます。そこに多くのヒントが隠されています。実はイエスに最も近い取り巻きの中でユダは価値のある存在であったと認めるかのよう。

ユダに対して初めて前向きな表現をしている文献が登場したことを活用して、当時の人たちがユダの果たした役割についてどう思っていたのかを見直す機会が到来したのです。

——同じように原始キリスト教の姿を伝える『トマスの福音書』には、イエスとユダにまつわる記述はありませんか？

『ユダの福音書』を含む写本はパピルスの劣化が進み、修復前にはぼろぼろの状態だった
写真撮影：フロランス・ダルブレ(Florence Darbre)



写本はエジプト政府に返還後、カイロにあるコプト博物館に保管される予定



ユダの裏切りの場面を天井に描いた、トルコのビザンチン様式のフレスコ画(年代は5~14世紀の間)。右手で祝福を示すキリストと、裏切りの接吻をするためキリストを抱擁するユダ

BOOK



『原典 ユダの福音書』

編著者ロドルフ・カッセル、マービン・マイヤー、グレゴール・ウルスト、バート・D・アーマン
日経ナショナル ジオグラフィック社 1,800円+税
1700年ぶりに復元・出版され、世界中で大論争を巻き起こした異端の「聖書」。そこに描かれたイスカリオテのユダは「裏切り者」でなく、キリストが深く信頼していた使徒であり、「裏切り」自体もキリストが欲したものであった…。

『ユダの福音書を追え』

ハーバート・クロスニー
日経ナショナル ジオグラフィック社 1,900円+税
正統派から異端の烙印を押され、歴史から葬り去られていた『ユダの福音書』。エジプトで写本が発見され、苦心の修復・解読を経て、その驚くべき内容が明らかになるまでを入念な取材でたどった渾身のドキュメント。



『ナショナル ジオグラフィック 日本版』(2006年5月号)
日経ナショナル ジオグラフィック社 980円+税
独占特集『ユダの福音書を追う』を収録した号。

写真撮影：Kenneth Garrett©2006 National Geographic Society (特別に表記してあるもの以外)



エジプトのミニヤー県北東部にある洞窟群。『ユダの福音書』を含む写本はこの付近で見つかった

関係性の未来



修復専門家のフロランス・ダルブル(右)とコプト語専門家のグレゴール・ウルスト。多数の断片を根気よくつなぎ合わせ、写本のページを修復していく

「トマスの福音書」には福音書という名前がついていますが、それは他のものとまったく別の位置づけにあると考えています。「トマスの福音書」は、弟子との関係性や決められたストーリーなどを追わず、「イエス曰く」という表現でイエスが語ったことをそのまま並べる語録というスタイルをとっているからです。ある意味で、これは禅の公案のようなもので、読者がそれについて深く考えることを求めています。原始キリスト教の段階では、むしろこのような信仰の姿が一般的だったのかも知れません。

『新約聖書』は、たしかに話がうまくまとまっていますが、福音伝道を行なおうとして書いた人が時々説明に苦心しているところがあります。また、『ユダの福音書』では、イエスの新たな側面や弟子達との関係を知ることができます。しかし、イエスの語ったありのままを記した「トマスの福音書」こそ、本当のイエスの姿をもっとよく伝えているのではないかと思います。

真実は複数ある

——福音書が複数あるということは、イエスの物語も信仰の仕方も複数あるということだと思います。どれが正しいのか、何が真実なのかは重要ではなく、多様性を認めることが重要であるとお考えですか？

新たに発見された福音書でわかったことは、宗教伝統がいかに多様なものであったのかということです。一般的に我々はひとつの真実への道があるのだらうと期待しがちですが、真実はひとつではなく、複数あるということに改めて思い返すことが肝心です。多様性こそが美しい、多様性があるからこそ豊かで喜ばしいという考え方が必要です。だから既存の福音書ではなく、異なる内容の福音書が求められているのでしょう。多様性の幅が広がれば広いほど、教えてくれるものが増えるのだと思います。

——物事を考える基準として正と誤という二元論を用いがちですが、それを外して物事を俯瞰できるような見方があれば教えてください。

私たちが、何が正しく何が間違いなのかを分けて考えたい時、ということが要素として

かかってくるのかを考えてみるというでしょう。背景にあるのは、これは真実、これは虚偽といった永遠のパターンがあると思込んでいることです。でも、そういう考え方は間違っていると思います。無条件に正しいということはないということを、まず認める必要があります。正誤という分類自体が誤っている、もしくは無用だと思えるほどです。

現実には存在しているのは、ありとあらゆる複雑なものが絡み合った世界。相対的な性質ですべてが決まっていることを理解する必要があります。それをわかっていないととても危険です。

たとえば仏教は、信仰には多様な姿があることを認めています。残念ながら、このような考え方に遅れをとっているのが、ユダヤ教・キリスト教・イスラム教の世界観です。つまり、唯一絶対神を信仰する宗教です。「神は唯一だから真実はひとつ。それを信じている自分は何をやっても許される」と思い込むことがその唯一システムの危険性であり、いろんなことに寛容でなくなっていく理由です。この機会に不寛容の考え方を超越する方策を考えなくてはなりません。それを乗り越えないと、いつまでも憎悪や暴力を克服することはできないでしょう。

世界にはいろんな意見、思想、暮らし方があることを認めたらうで、異なる考え、異なる生き方をしている人たちが相互に交流することによってこそ、みんながクリエイティブな生き方を享受できるのだと思います。

『ユダの福音書』の発見は、とても象徴的な出来事でした。ユダは排除され、憎まれ、呪われてきたけども、今、そのイメージをくつがえす視点が再発見された。それは、誰の中にもある憎悪や不寛容、そのことに対する隠れた罪悪感を逆転させる可能性を持っています。それこそがこの福音書が訴える力なのだと思います。

Text by : 倉田 楽

※1 死海文書…1947年、イスラエルで発見された最古の聖書写本と聖書の外典などからなるユダヤ教聖書の文書

※2 トマスの福音書…1945年、エジプトで発見された冊子形態の写本「ナグ・ハマディ写本」に含まれていた初期キリスト教の文書。114の文からなるイエスの語録

DVD BOOK



【ビジュアル保存版 ユダの福音書】
●DVD・日本国内向け・本編87分・英語オリジナル／日本語吹替え(一部字幕)
●ブックレット・A5判ハードカバー・日本語翻訳版(『ユダの福音書』の脚注つき日本語訳、解説にあつたマービン・マイヤー氏の『ユダの福音書』の意義とその解説ほか)
日経ナショナル ジオグラフィック社 価格3,990円(税・送料込み)

DVD



【ユダの福音書～イエスと“裏切り者”の密約】
日本国内向け・本編87分・英語オリジナル／日本語吹替え(一部字幕)
日経ナショナル ジオグラフィック社 価格2,980円(税・送料込み)

Web



ナショナル ジオグラフィック日本版
<http://nng.nikkeibp.co.jp/nng/>

写本の最終ページ、最後の行には「ユダの福音書」の文字が読み取れる